

第5章 データで見る気仙沼ESD/ユネスコスクール

I ESDの取組状況

■気仙沼市立学校教頭会調査研究アンケート結果より

ESD（「持続発展教育」または「持続可能な開発のための教育」）に関する調査

平成22年7月調査

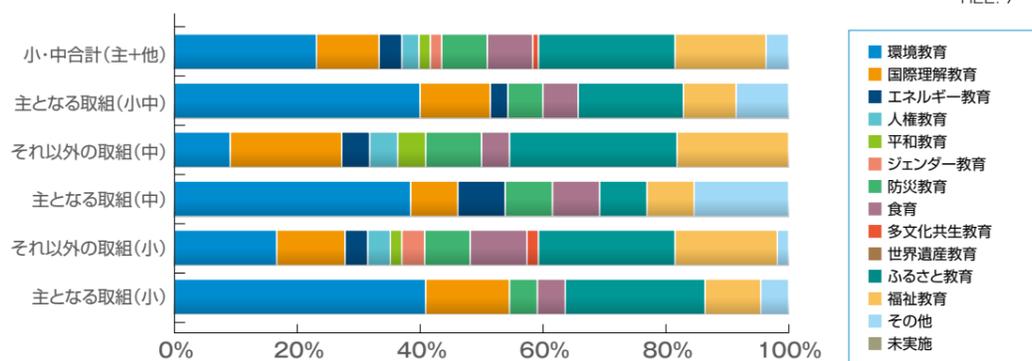
1 御校のESDの取組分野は次のいずれですか。

主となる取組1つに◎を、それ以外の取組に○（複数回答可）をつけてください。

項目	主となる取組 (小学校)	それ以外の取組 (小学校)	主となる取組 (中学校)	それ以外の取組 (中学校)	主となる取組 (小中学校)	小・中合計 (主+他)
環境教育	9	9	5	2	14	25
国際理解教育	3	3	1	4	4	11
エネルギー教育	0	2	1	1	1	4
人権教育	0	2	0	1	0	3
平和教育	0	1	0	1	0	2
ジェンダー教育	0	2	0	0	0	2
防災教育	1	4	1	2	2	8
食育	1	5	1	1	2	8
多文化共生教育	0	1	0	0	0	1
世界遺産教育	0	0	0	0	0	0
ふるさと教育	5	12	1	6	6	24
福祉教育	2	9	1	4	3	16
その他 <small>(地域遺産教育、キャリア、地域づくり)</small>	1	1	2	0	3	4
未実施	0	0	0	0	0	0

ESDの取組とその割合

H22. 7

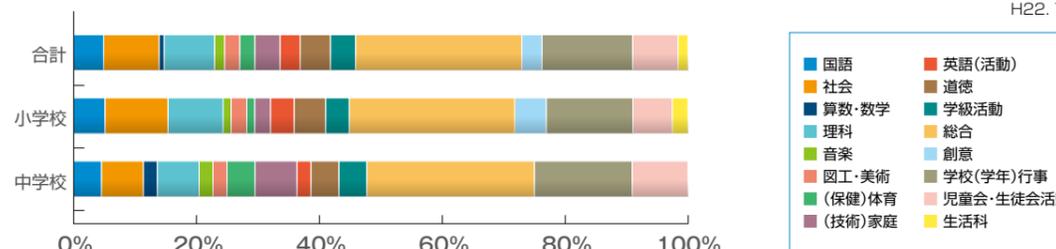


2 御校ではESDの取組をどの教科・領域で実施していますか。該当する教科・領域すべてに○をつけてください。

項目	小学校	中学校	合計
国語	4	2	6
社会	8	3	11
算数・数学	0	1	1
理科	7	3	10
音楽	1	1	2
図工・美術	2	1	3
(保健)体育	1	2	3
(技術)家庭	2	3	5
英語(活動)	3	1	4
道徳	4	2	6
学級活動	3	2	5
総合	21	12	33
創意	4	0	4
学校(学年)行事	11	7	18
児童会・生徒会活動	5	4	9
生活科	2	0	2

ESDの実施教科・領域の割合

H22. 7



3 御校のESDの取組の結果、児童・生徒はどのように変容しましたか。次の中の該当するものに○（複数回答可）をつけてください。

ESDの取組による児童生徒の変容

H22. 7



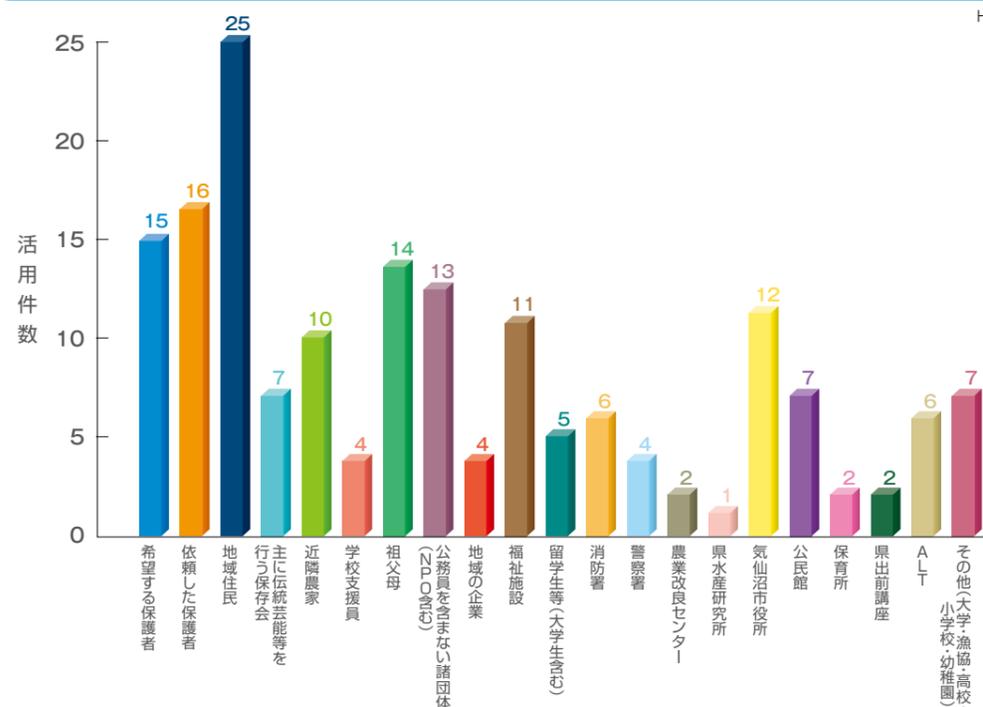
- 自然への畏敬と感謝の心、環境保全の態度
- 協働と勤労意欲、社会貢献の態度
- 地域・外国の環境、社会とのつながりの認識
- 危険(災害)を予知する力と回避する力
- 自国と他国文化理解と保護の態度、郷土愛
- 国際的な視野と未来を見通す力
- コミュニケーション能力と受容の精神
- 観察力、表現力、問題解決能力と行動・実践力
- 取組期間が短いので変容がまだ見られない

4 ESDの取組を行う際、保護者や外部機関との連携が考えられます。
御校で活用している外部人材すべてに○（複数回答可）をつけてください。

項目	小学校	中学校	合計
希望する保護者	13	2	15
依頼した保護者	13	3	16
地域住民	16	9	25
主に伝統芸能等を行う保存会	5	2	7
近隣農家	8	2	10
学校支援員	3	1	4
祖父母	12	2	14
公務員を含まない諸団体(NPO含む)	6	7	13
地域の企業	2	2	4
福祉施設	7	4	11
留学生等(大学生含む)	4	1	5
消防署	2	4	6
警察署	2	2	4
農業改良センター	2	0	2
県水産研究所	1	0	1
気仙沼市役所	7	5	12
公民館	6	1	7
保育所	0	2	2
県出前講座	2	0	2
ALT	6	0	6
その他(大学、漁協、高校、小学校・幼稚園)	4	3	7

外部人材活用件数

H22. 7



5 御校のESD取組における課題は何ですか。
次の項目の中から該当するものに○（複数回答可）をつけてください。

項目	小学校	中学校	合計
関係機関(地域)との連携のあり方	7	5	12
天候に左右される点	3	5	8
職員の研修に関する点	9	4	13
児童・生徒数の減少による負担増	3	0	3
教科・領域の関連性	12	7	19
学年間の系統性	8	3	11
地域のESDに対する認識度	3	2	5
実社会で役に立つ内容か	0	0	0
地域人材の確保	7	3	10
日程調整	4	5	9
総合的な学習の時間の減少	4	2	6
活動内容の吟味	10	6	16
活動予算の確保	7	4	11
他の学校(海外含む)との連携のあり方	4	3	7
その他(指導計画の立案)	1	1	2
課題なし	0	0	0

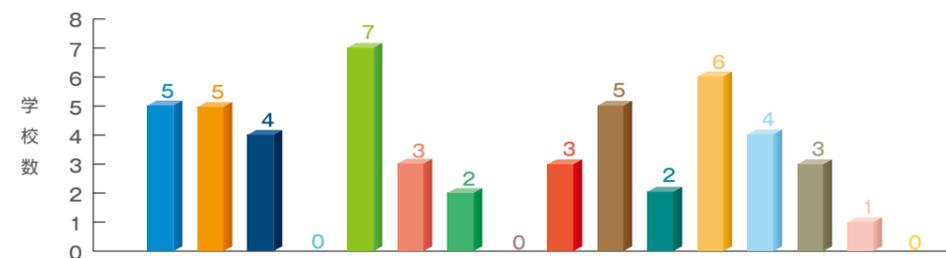
小学校におけるESD取組の課題

H22. 7



中学校におけるESD取組の課題

H22. 7



小中学校におけるESD取組の課題

H22. 7



II 教職員のESDに対する意識

6-① ESDに関するアンケート（教務主任）

1) あなたはESDという言葉を知っていますか。

- 1 内容をある程度説明できる
- 2 言葉は知っているが内容を説明する自信がない
- 3 言葉を知らない
- 4 未回答

小学校	中学校	合計
17	11	28
4	1	5
0	0	0
0	1	1

2) 気仙沼市が日本におけるESDの推進役であることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった
- 3 未回答

小学校	中学校	合計
21	11	32
0	1	1
0	1	1

3) 新学習指導要領にESDの考えが取り入れられていることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった
- 3 未回答

小学校	中学校	合計
21	12	33
0	0	0
0	1	1

4) 貴校ではESDを意識して学習活動に取り組んでいますか。

- 1 取り組んでいる
- 2 ある程度取り組んでいる
- 3 ほとんど意識していない
- 4 意識していない
- 5 未回答

小学校	中学校	合計
7	6	13
11	5	16
2	0	2
1	0	1
0	2	2

6-② ESDに関するアンケート（研究主任）

1) あなたはESDという言葉を知っていますか。

- 1 内容をある程度説明できる
- 2 言葉は知っているが内容を説明する自信がない
- 3 言葉を知らない

小学校	中学校	合計
15	9	24
6	4	10
0	0	0

2) 気仙沼市が日本におけるESDの推進役であることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

小学校	中学校	合計
21	13	34
0	0	0

3) 新学習指導要領にESDの考えが取り入れられていることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

小学校	中学校	合計
19	11	30
2	2	4

4) 貴校ではESDを意識して学習活動に取り組んでいますか。

- 1 取り組んでいる
- 2 ある程度取り組んでいる
- 3 ほとんど意識していない
- 4 意識していない

小学校	中学校	合計
9	5	14
9	8	17
2	0	2
1	0	1

6-③ ESDに関するアンケート（他の主任）

1) あなたはESDという言葉を知っていますか。

- 1 内容をある程度説明できる
- 2 言葉は知っているが内容を説明する自信がない
- 3 言葉を知らない

小学校	中学校	合計
5	8	13
16	5	21
0	0	0

2) 気仙沼市が日本におけるESDの推進役であることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

小学校	中学校	合計
20	12	32
1	1	2

3) 新学習指導要領にESDの考えが取り入れられていることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

小学校	中学校	合計
17	12	29
4	1	5

4) 貴校ではESDを意識して学習活動に取り組んでいますか。

- 1 取り組んでいる
- 2 ある程度取り組んでいる
- 3 ほとんど意識していない
- 4 意識していない

小学校	中学校	合計
5	5	10
14	6	20
2	2	4
0	0	0

6-④ ESDに関するアンケート（主任合計）

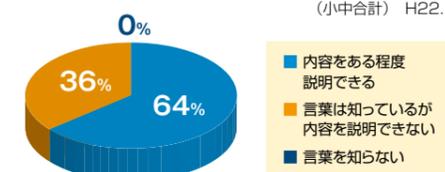
1) あなたはESDという言葉を知っていますか。

- 1 内容をある程度説明できる
- 2 言葉は知っているが内容を説明する自信がない
- 3 言葉を知らない

小学校	中学校	合計
37	28	65
26	10	36
0	0	0

あなたはESDという言葉を知っていますか

(小中合計) H22.7



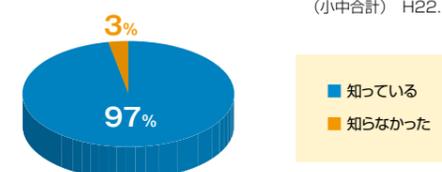
2) 気仙沼市が日本におけるESDの推進役であることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

小学校	中学校	合計
62	36	98
1	2	3

気仙沼市が日本のESDの推進役である

(小中合計) H22.7



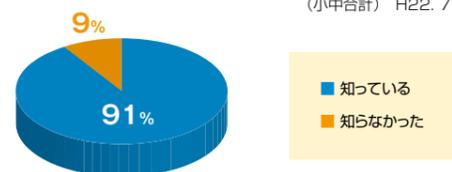
3) 新学習指導要領にESDの考えが取り入れられていることを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

57	35	92
6	3	9

新指導要領にESDの考えが取り入れられている

(小中合計) H22. 7



4) 貴校ではESDを意識して学習活動に取り組んでいますか。

- 1 取り組んでいる
- 2 ある程度取り組んでいる
- 3 ほとんど意識していない
- 4 意識していない

21	16	37
34	19	53
6	2	8
2	0	2

ESDを意識して学習活動に取り組んでいる

(小中合計) H22. 7

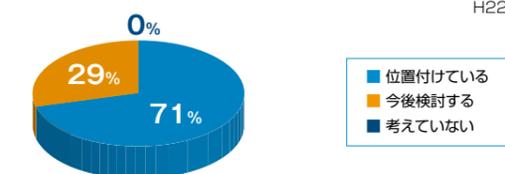


8) 御校では校務分掌にESDやユネスコスクールを今年度位置付けていますか。

項目	小学校	中学校	合計
位置付けている	16	8	24
今後検討する	5	5	10
考えていない	0	0	0

校務分掌への位置付け

H22. 7

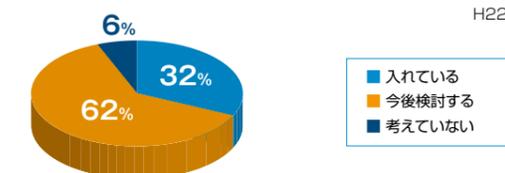


9) 御校では今年度、教育計画にESD全体計画等、ESDの項目を設け、入れていますか。

項目	小学校	中学校	合計
入れている	7	4	11
今後検討する	13	8	21
考えていない	1	1	2

教育計画に位置付け

H22. 7

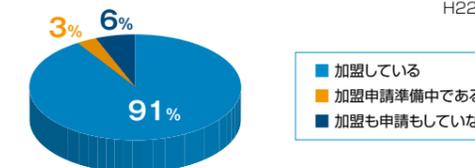


10) 御校ではユネスコスクールに加盟していますか。または申請しましたか。該当するものに○をつけてください。

項目	小学校	中学校	合計
加盟している	20	11	31
加盟申請準備中である	0	1	1
加盟も申請もしていない	1	1	2

小・中学校のユネスコスクール加盟状況

H22. 7



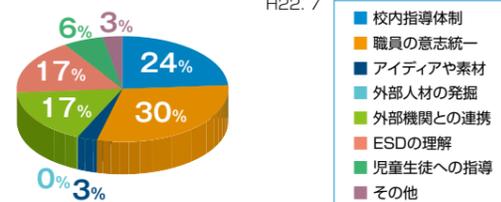
III ESDの推進体制

7) 教頭としてESDに最も大切だと思うことは何ですか。以下の項目の中から1つ選び○をつけてください。

項目	小学校	中学校	合計
校内指導体制	3	6	9
職員の意志統一	8	3	11
アイデアや素材	1	0	1
外部人材の発掘	0	0	0
外部機関との連携	3	3	6
ESDの理解	4	2	6
児童生徒への指導	1	1	2
その他	1	0	1

教頭として、ESDにとって最も大切なこと一つ

H22. 7

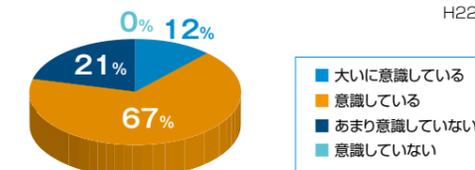


11) 御校の校内研究や校内研修等で、ESDを意識して取り組んでいますか。該当するもの1つに○をつけてください。

項目	小学校	中学校	合計
大いに意識している	2	2	4
意識している	14	9	23
あまり意識していない	5	2	7
意識していない	0	0	0

校内研究や校内研修におけるESDの意識

H22. 7



おわりに

ESDリード地域である気仙沼への期待

グローバル化の進む「知識基盤型社会」の時代の中で、学習指導要領でいう「生きる力」を子どもたちの中に育むことがますます重要になってきている。学校での学びに有機的なつながりを持たせて「生きる力」に収斂させるには、まさに教師の力量が問われるところである。近年、この有機的なつながりの要として持続発展教育(ESD)が大いに期待されている。ESDは、持続可能な社会をつくるための人づくりである。ESDは2008年の教育振興基本計画に盛り込まれ、新しい学習指導要領にも「持続可能な社会を構築する」ことが入れられている。ESDには、環境教育、国際理解教育、人権教育まで、さまざまな現代的な課題が含まれるが、その実施にあたっては二つの観点、すなわち「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」と「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと」が必要とされている。したがってESDでは、個別分野の取組のみではなく、さまざまな分野を多様な方法でつなげて、総合的に取り組むことが大事である。宮城教育大学は、10年来、気仙沼市の教育に関わらせていただいているが、2008年に宮城教育大学が提唱したユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASP UnivNet)としても12大学の一員として積極的に協力させて戴いている。

気仙沼市のESD活動は、日本国内だけでなく、世界からも注目されている。気仙沼におけるESDの活動は、10年前に面瀬小学校の環境教育に始まり、地域の小学校に広がるとともに、小学校から中学校、中学校から高校へと、ネットワークが市全体に広がっている。これには教育委員会の英断もあり見事な地域的な広がりをみせた。学校間で多少の温度差はやむを得ないにしても、それぞれの学校の活動は、それぞれの独自性や特徴を持って着実に発展している。一般には、活動の中心を担う教員の異動、校長の交代などによりESD内容の大きな変更の可能性を秘めているが、気仙沼市は教育委員会がリードすることによって、この課題を解決しており、その意味でも時間的な継続性を持った地域である。

これからのユネスコスクールネットワーク(ASPnet)のESD活動として、一層期待できることとして、2点ある。その第一は、ESDを通しての教育の質の向上である。学校におけるESDの質を高めるには、ESD活動と教科の基本とを離して考えることはできない。しっかりした基本があってこそESD活動がより効果的な教育活動となる。すなわち、クリティカル・シンキングが可能となり、システム・シンキングが可能となり、グローバルなシンキングが可能となる。子どもたちは、なぜ勉強しなければならないか、学習することの重要性にも気づくこともあり、学習意欲を増すものと考えられる。そして、さらに重要なことは、ESD活動によって得た豊かな経験、価値ある体験は、教科の基本の学習に反映させることが大事である。

第二は、質の高いネットワークの形成である。それぞれのユネスコスクールでは、ESDの視点に立った教育が展開されており、その教育内容の質の高まりをみせていることは、気仙沼市に関わる誰もが感じていることだろうと思う。これからは、国内のユネスコスクールとの活発な情報交流、あるいは海外の学校との交流を通して、相手の良さに気づき、自分の良さにも気づくことが大事であり、互いに高め合うことができる。ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASP UnivNet)では、現在、アジア地域を中心としたモデルプログラムを検討しており、その一つとして「おこめ」(米)をテーマにすることが決まっている。

教科の基礎基本に豊かな体験を加え、クリティカル・シンキングやコミュニケーション能力、主体的な行動力などの育成の機会を与えてくれる。次代を担う子どもたちに「生きる力」を育むために、ESDは大きな可能性を持っていると考える。これからも気仙沼市が世界のモデル地域として、ユネスコスクール・ネットワークを活用したESDが、地域の子どもの成長に大きく貢献してくれることを期待している。

見上 一幸 (宮城教育大学副学長、ASP UnivNet事務局)

参考文献

- ▶ 「メビウス～持続可能な循環 “Mobius for Sustainability” 2002-2009」
..... 気仙沼市教育委員会、宮城教育大学、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会
- ▶ 「ユネスコ・スクールと持続発展教育(ESD)について」..... 日本ユネスコ国内委員会
- ▶ 「気仙沼市ESDカリキュラムガイド<第3版> 小・中学校編『環境教育を基軸としたESDカリキュラムの開発と実践』」
..... 気仙沼市教育委員会
- ▶ 「UNDESJ Japan Report」..... 「国連持続可能な開発のための教育」関係省庁連絡会議
- ▶ 「Education for Sustainable Development - Japan Good Practices」..... 日本ユネスコ国内委員会
- ▶ 「学校における持続可能な発展のための教育に関する研究(ESD) 中間報告書」..... 国立教育政策研究所
- ▶ 「学校における持続可能な開発のための教育に関する研究(ESD) 準備会報告書」..... 国立教育政策研究所
- ▶ 「総合調査報告書『持続可能な社会の構築』」..... 国立国会図書館
- ▶ 「かざぐるま通信No.21『持続可能な社会の担い手を育てる“ESD”』」..... 光村図書
- ▶ 「第51回全国公立学校教頭会研究大会千葉大会 第2分科会 発表補助資料」..... 気仙沼市立学校教頭会
- ▶ 「A GUIDE TO CURRICULUM PLANNING IN Environmental Education」
..... Wisconsin Department of Public Instruction, USA
- ▶ 「国際環境教育研究紀要『子どもの感性と知性を磨く、地球探索型環境教育の創造』」..... 気仙沼市立面瀬小学校
- ▶ 「環境教育が分かる事典」..... 日本生態系協会
- ▶ 「ユネスコ・スクール研修会資料」..... 日本ユネスコ協会連盟
- ▶ 「岩手県幼小中高大専ESDサミットの記録」..... 岩手大学ESD推進委員会
- ▶ 「ESD教材活用ガイド～持続可能な未来への希望」..... ユネスコ・アジア文化センター
- ▶ 「わかる! ESDテキストブック2・希望への学びあい一何を、どう、はじめるかー」
..... 持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)
- ▶ 「Linkage 持続可能な開発のための教育(ESD) 2009年」..... 宮城教育大学
- ▶ 「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)」..... 宮城教育大学

執筆者一覧

第1章	気仙沼市の地域に根ざした「持続発展教育(ESD)」の推進		
	気仙沼市立中井小学校	教頭	及川 幸彦
第2章	気仙沼市内各校のユネスコスクールの取組事例		
	気仙沼市立小中学校・県立高等学校ユネスコスクール加盟校33校		
第3章	気仙沼市におけるESD/ユネスコスクール普及推進のための取組		
	気仙沼市・宮城教育大学連携センター	研究員	青野 哲大
第4章	気仙沼ESD/ユネスコスクールと宮城教育大学・東北大学との協働		
	宮城教育大学附属国際理解教育研究センター	教授	市瀬 智紀
	同 社会科教育講座	教授	小金澤孝昭
	同 附属環境教育実践研究センター	准教授	島野 智之
	同 附属環境教育実践研究センター	准教授	溝田 浩二
	同 理科教育講座	准教授	棟方 有宗
	東北大学環境科学研究科	准教授	浅沼 宏
第5章	データで見る気仙沼ESD/ユネスコスクール		
	気仙沼市立唐桑中学校	教頭	中嶋 亨

研究同人

◆ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASP Univ Net)

宮城教育大学	副学長	見上 一幸
同	教授	小金澤孝昭
同	教授	市瀬 智紀
同	准教授	棟方 有宗
同	准教授	島野 智之
同	准教授	溝田 浩二
東北大学	准教授	浅沼 宏

◆気仙沼市教育委員会

学校教育課長	佐藤 均
学校教育課副参事兼指導主事	菅原 進
学校教育課課長補佐兼指導係長(指導主事)	伊東 毅浩
気仙沼市・宮城教育大学連携センター 研究員	青野 哲大

◆気仙沼市立学校教頭会研究部(平成20-22年度)

気仙沼市立気仙沼小学校	教頭	伊藤 竹好
同 鹿折小学校	教頭	伊藤平一郎
同 中井小学校	教頭	及川 幸彦(平成20・21年度部長)
同 大島小学校	教頭	小野寺邦彦
同 月立小学校	教頭	小野寺由子
同 小原木中学校	教頭	木村 司
同 面瀬中学校	教頭	佐々木 勉(平成22年度部長)
同 新城小学校	教頭	高宮 一夫
同 唐桑中学校	教頭	中嶋 亨
同 新月中学校	教頭	樋口 英明(※現角田中学校)

編集後記

平成22年度宮城教育大学特別経費「東北地方の地域遺産を活用した地域と世界を結び持続発展教育の推進」経費によって、この共同研究紀要を編集・出版します。経費の目的とするところは次の通りです。「東北地方の地域に残る豊かな人的・物的リソースを活用して、ESD(持続発展教育)を実践する。また、コミュニケーションスキルを用いて成果を国内外の他地域や海外へと発信し、学校と地域そして世代間を結びつけた循環型の持続可能な地域の教育を推進する。」宮城教育大学との平成22年度の連携事業、気仙沼ESD/ユネスコスクール研修会を核として編まれたこの共同研究紀要を発刊することによって、気仙沼の教育が持続可能な地域教育のモデルとなることを期待します。

(特別経費プロジェクトリーダー 附属国際理解教育研究センター教授 市瀬智紀)

気仙沼ESDプロジェクトの軌跡 ～気仙沼市と宮城教育大学のESD協働10年の歩み

2002	3月	面瀬小学校がフルブライトメモリアル基金マスターティーチャープログラム(MTP)に選抜され、米国ウィスコンシン州リンカーン小学校と国際共同環境教習を開始する
	5月	面瀬小学校の国際環境教育を中心に宮城教育大学と気仙沼市教育委員会の連携が始まる
2003	2月	宮城教育大学と連携し面瀬小学校が「国際環境教育公開研究会」を開催する(以降4回開催)
	3月	面瀬小学校が、「日米教員会議」(ワシントン)で発表するとともに、宮城教育大学とウィスコンシン州知事と会見して、連携を深める
2004	2月	宮城教育大学が、国連大学学長、文部科学省国際統括官等を招聘し「ユネスコ/日本 アジア・太平洋地域環境教育研究セミナー」(日本ユネスコ国内委員会等主催)を気仙沼市で開催する
2005	2月	気仙沼市の小・中・高校がMTPに参加し、テキサスの学校と協働でESDを開始する(～2007)
	3月	気仙沼市教育委員会と宮城教育大学が、「連携協力に関する覚書」に調印する
	6月	「国連ESDの10年」がスタートするに際し、気仙沼市が、国連大学より「持続可能な開発のための教育の地域拠点」(ESD/RCE)として宮城教育大学を核とする「仙台広域圏RCE」に認定される
	8月	宮城教育大学と連携し「環境教育サテライト公開講座」を気仙沼で初めて開催する
2006	11月	「ユネスコ/日本 アジア・太平洋地域環境教育研究セミナー」の一部を、面瀬小学校で開催する
	5月	鹿折地区の3小学校と宮城教育大学国際理解教育研究センターとの連携が始まる
	6月	外務省・アジア協力対話・環境教育推進会議(仙台)で気仙沼市教育長が発表する
	6月	地域及び日米の小中高大学による「気仙沼ESD・RCE推進会議(円卓会議)」を開催する
2007	11月	気仙沼市のESDを推進する26の関係機関からなる「気仙沼ESD/RCE推進委員会」を組織する
	2月	日本ユネスコ国内委員会から招聘され、教育及び普及活動の2つの小委員会で気仙沼市の取組を発表する
	3月	気仙沼市教育委員会と宮城教育大学が「メビウス」(初版)を発行する
	3月	気仙沼市のMTP参加校、気仙沼市教育委員会、宮城教育大学が、カリスバーク小・中・高校とともに、米国テキサス州議会の上・下院より表彰決議を受ける
2008	8月	気仙沼の取組が、日本からのUNESCOへの提言に「国内の主要な取組」として掲載される
	1月	ACCU韓国教職員招へいプログラムで、初めて韓国教職員(31名)の視察を受け入れる
	1月	気仙沼市が、政府の関係省庁連絡会議「国連ESDの10年円卓会議」に招聘される
	8月	韓国政府日本教職員招へいプログラムに気仙沼市より初めて教員(7名)を派遣する
	10月	ACCU中国教職員招へいプログラムで、初めて中国教職員(26名)の視察を受け入れる
	10月	気仙沼市の15校(小10、中4、高1)が、初めて「ユネスコスクール」に認定される
2009	12月	ESD国際フォーラム(UNESCO、文部科学省主催)で、気仙沼が優良事例として紹介される
	2月	気仙沼市で、日中韓「ESD/ユネスコ・スクール国際フォーラム in Kesenuma 2009」を開催する
	3月	「メビウス」日・英版を気仙沼市教育委員会と宮城教育大学、文部科学省が共同で発行する
	3月	「APEID」&「World Teacher's Day」(バンコク)で気仙沼のESDの取組を発表する
	3月	ドイツで開催された「ESDの10年の中間年世界会議」へ日本政府から提出された「ジャパン・レポート」に気仙沼の取組が掲載されるとともに、「メビウス」(英語版)も資料として提出される
	6月	中国政府日本教職員招へいプログラムに初めて気仙沼市から教員を派遣する
	7月	全国公立学校教頭会研究大会で、気仙沼市立学校教頭会が、全国で初めてESDに関する提言を行う
	8月	宮城教育大学が、気仙沼市で教員免許状更新講習を兼ねてESDサテライト講座を開催する
	10月	日米ESDベストプラクティスカンファレンス(オレゴン州)に参加し、気仙沼の実践を発表する
	11月	「みやぎ教育月間 記念講演・文化遺産実践発表会 世界文化遺産出前高座」を気仙沼市で開催する
	11月	第1回ユネスコスクール全国大会(東京)に招聘され、気仙沼市からESDの取組を提言する
2010	1月	気仙沼市で「日韓ESDフォーラム」(宮城教育大学、気仙沼市教育委員会等主催)を開催する
	3月	気仙沼市教育委員会が「気仙沼市ESDカリキュラムガイド」(小中学校編)を発行する
	5月	フルブライトジャパン・ESD日米教員交流プログラムに初めて気仙沼の教員(3名)が参加する
	5月	宮城教育大学、東北大学と連携し、第1回気仙沼ESD/ユネスコスクール研修会を開催する
	6月	気仙沼市が、ESD日米教員交流プログラムに参加する米国教員(16名)を初めて受け入れる
	6月	環境省、文部科学省、フルブライトジャパンと連携して、気仙沼ESD/RCE円卓会議2010を開催する
	7月	アジア・太平洋地域ESDセミナー(バンコク・ユネスコ主催)で気仙沼の取組を発表する
	8月	宮城教育大学が、気仙沼市でESDサテライト講座兼教員免許状更新講習を開催する
	10月	宮城教育大学で開催された第2回ユネスコスクール全国大会で、気仙沼の実践を発表する
	2011	1月
3月		気仙沼市のユネスコスクールの加盟校は、2011年3月現在、1幼稚園、20小学校、11中学校、2高校の計34校が認定され、市町村では全国最多の加盟校となる
3月		宮城教育大学と気仙沼市教育委員会、市立学校教頭会が「気仙沼ESD共同研究紀要」を発行する